

2016年度 第2回 番組審議会 議事録

I. 開催概要

2016年9月26日(月)16時00分～16時55分 キッズステーション本社会議室

II. 出席者

1. 審議委員 : 7名

鵜沢由美子 (明星大学 人文学科 人間社会学科 准教授)
蛭原英里 (チャイルド・ボディ・セラピスト)
北風祐子 (株式会社電通 マーケティングソリューション局 部長)
菅谷 実 (慶應義塾大学名誉教授)
高芝利仁 (弁護士)
田口成光 (脚本家・放送作家)
大地丙太郎 (アニメ監督)

[50音順;敬称略]

2. 事業者側 : 9名

[経営] 山本 雅 (代表取締役社長CEO)、山中崇之 (取締役COO)
[編成] 押田聖弘 (編成部長兼制作部長)、生駒裕之 (編成部長代理)、
竹内誉人 (制作部長代理)、守田奈緒巳 (IP営業室員)、北口拓也 (制作部員)
[事務局] 飯野博之 (経営企画室長兼広報室長)、孫 英活 (広報室長代理)

III. 議事内容

1. 社長挨拶 株式会社キッズステーション 代表取締役社長CEO 山本 雅

本年度2回目の開催となる番組審議会にお集りいただき、有り難うございます。本日合評頂く番組は当社IP (Intellectual Property [知的財産]) である「ちょびつとづかん」と、私共の得意とする未就学児童向け「キッズかん」という、それぞれ現在当社の事業にとって戦略的位置付けにある番組となります。今回も皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

2. 番組審議 司会進行: 北風委員長

対象番組

① 「ちょびつとづかん」(4分)

- ・放送日時 : 毎週日曜20:55～21:00 / 毎週土曜16:54～16:59
- ・ターゲット : ティーン (サブターゲット:0～12歳の女子、ママ層)

話数	ちょびつとづかん	初回放送
1	ちょびつとたちの冒険	7月2日
6	ちょびつとのちいさーい悩み	8月14日
7	シボリオチチを守れ!	8月21日
9	ちょびつと達のかくれんぼ	9月4日
11	ホトケアカバネはずっと浮いている?	9月18日

② 「キッズかん」(13分)

- ・放送日時 : 毎週月曜～金曜10:45～11:00
- ・ターゲット : 未就学児

話数	キッズかん	初回放送
1	ものがつくられる! ずかん	9月19日
2	がっきずかん	9月22日
1	たべものずかん	9月23日

① 「ちょびっとづかん」合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局：「ちょびっとづかん」のもととなるのが、2006年に図鑑の体裁で小さな子ども向けに出版された書籍、「こびとづかん」です。2016年に初出版から10周年を迎えるにあたり、更に大きな展開を狙う取り組みの一つとして、スピンアウトアニメとして生まれたのが「ちょびっとづかん」になります。「こびとづかん」に登場するキャラクターはいずれも、きもかわいい、見た目にインパクトがあるものばかりで、雑貨購買意欲の高いティーン層を中心に人気がありました。書籍の展開では、しゃべらない「こびと」たちの世界観を大切にしましたが、アニメ化に際し、今までできなかったことができるよう、あえて自由度の高いキャラクター設定をして、クロスメディア展開を目指し、色々と試すこととなりました。

「ちょびっとづかん」は絵本のシュールな世界観をちょびっとだけ継承した、ショートアニメになり、本編が2分、エンディングが2分からなる作品です。制作は「がんばれ！おでんくん」で実績のある勝鬨スタジオが担当し、主人公のカクレモモジリの声はこれまで「しょくばんまん」、「ナウシカ」などでお馴染みの島本須美さんが担当しています。また、エンディングで登場するのは、アソビシステム所属のグループで、同事務所のきやりーぱみゅぱみゅのバックダンサーも務めた実績のあるTEMPURA KIDZ、テーマソング「I Like It」のヴォーカルとダンスを担当しています。同グループは、海外公演も含んだイベントで、「I Like It」を歌い踊り、「ちょびっとづかん」をプロモートしてくれています。因みに、同曲はロンドンの有名レーベルPC Musicが制作を担当しています。

本作品の放送目的は有料視聴者獲得というよりは、IPのプロモーションということになり、当社では放送権のほか、商品化権、番組販売権を取得し、それらロイヤリティ収入の最大化を目指しています。製作委員会各社で商品化権を共同所有していますので、今後様々な形で商品化を進め、活用して行くこととなります。

委：「ちょびっとづかん」の放送が新しいIP事業の取り組みの一環ということを理解いたしました。作品自体は面白いのですが、冒頭からテンポが速く登場キャラクターの名前も覚えられず、セリフも早口でリラックスし過ぎて見てはついていけないなと感じました。また、とてもノリもよく口ずさみたくなるテーマソングでも、歌詞が最後の方で聞き取れなかったこともあり、歌詞の字幕があればよいかなとも思いました。この全体的な速さはどういう趣旨でそうなっているのか、何か制作意図があれば教えていただけますか。

局：テンポの速さに関して特に何らかの制作意図があったかは、確認しなければ分かりませんが、本作品のターゲットが小さな子どもというよりも、雑貨系購買層であるティーン向けであるということもあり、分かりやすさとか聞きやすさより、テンポ、ノリのよさを重視しているところに関係していると思います。放送時間も日曜夜、土曜夕方というところで、このターゲット層を意識した編成を組んでいます。

委：今のところどんな「ちょびつとづかん」グッズが発売されているのでしょうか。

局：放送も7月から始まったばかりで、これから作って行くということになります。今までの「こびとづかん」ですと、サブカル系グッズを扱うお店でのニーズが高かったのも、そういった若者向け雑貨系を中心に展開したいと考えています。

委：新しいチャレンジをされているということはよく理解できました。ただ、「こびとづかん」のスピニングアニメであるということで、「こびとづかん」のよさを分らないと楽しめないのかなと感じました。作品の印象としては、新聞の三コマ漫画をストーリー仕立てにした映像版のような感じを受けましたが、私も会話のスピードが速く、少し聞き取り難いのが気になりました。

委：特にカクレモジリのセリフがどうしても聞き取れなくて、やはり自分が付いて行けないのはティーンというメインというターゲット層に入っていないからだなと感じました。

委：「ちょびつとづかん」というアニメに関しては、私はよく分かりませんでした。確かに言葉も聞き取り難く、少し早すぎるのかなと思いました。あと、演出上の関係かと思いますが、各キャラクターから感情が出ていないような、セリフからはニュアンスがよく伝わってこないのではと感じました。私もティーン向けというターゲット層には入っていないのだなということでしょうか。ただ、エンディングのダンスは面白かったですし、見ていてすごく気持ちよかったです。

委：サブターゲットが0～12歳の女の子、ママ層とありますが、実際ターゲットとしては、どの辺を狙っているのでしょうか。

局：やはりメインターゲットは、女子中高生ティーンになります。

委：「こびとづかん」の絵本が10年前に小さい子どもたちに流行ったので、その子どもたちがティーンになった今、アニメの「ちょびつとづかん」でその子たちを取り込むということでしょうか。

局：子どもの時に「こびとづかん」に慣れ親しんで成長した今の子たちを取り込むということがメインではなく、「こびとづかん」が出版された際に、女子中高生を中心とするティーン層に流行った事実を踏まえ、今回ティーン層をはじめからメインターゲットとして捉えたのが「ちょびつとづかん」になります。

局：5月5日「こどもの日」に横浜山下公園周辺で、「ちょびつとづかん」のイベントを行ったのですが、その際6メートルのカクレモジリの風船をイベント会場に展示したり、TEMPURA KIDZのダンスパフォーマンスもありました。小さい頃に「こびとづかん」を読んでいた子たちとか、「ナウシカ」から島本須美さんのファンになった人たちとか、結果として、未就学児から40歳代までの幅広い年齢層からなるお客さまにお越し頂きました。

委：家族で一緒に見たのですが、すごくシュールな内容ですね。サブターゲットの小さな子どもは意味が分からなくても見るだろうなと思いました。何か後からじわじわくるという感じの作品ですね。エンディングのTEMPURA KIDZのダンスは、振付けを覚えて一緒に踊りたい気持ちになりました。た

だ、アニメのテンポが速く、たまに何を言っているか分かり難いので、何度か見返しました。聞きやすくなるようもう少し遅くしてもよいのかなと思いました。

委：私はターゲットとなる娘と一緒に見たのですが、娘が見た瞬間、これって「こびとづかん」と、すぐ分かった反応を示しておりました。やはり娘も台詞の言い回しは早口だと言っていました。

2006年に絵本が出版された際には、キディランドに多く絵本が並んでいたのを思い出します。その時私たち親子はシュールさが強く印象に残ったのですが、今回アニメを見て、「こびとづかん」と「ちょびつとづかん」がミックスアップされ、アニメで登場するキャラクターのこともよく分からないまま進み、アニメ化で少し可愛くなった分、薄まったような中途半端な印象を受けました。ただ、絵本をアニメ化することは目の付けどころがよいなと思います。テンポを少し落ち着かせ、ストーリー展開をもう少し工夫すれば、更に興味深い作品になるかと思います。

あと、エンディングのダンスは娘に受けまして、ももクロっぽく動きもよく、TEMPURA KIDZのダンスパフォーマンスはどこで見られるのだろうか、もっと出ないのかなと言っていました。「ちょびつとづかん」は、ティーンに受けるのではないかと思いました。

委：昔「こびとづかん」を読んできたファンを狙うのであれば、私は話の展開をもう少し大人っぽくしてもよいのではと思いました。やはり「ちょびつとづかん」はよく見ていないとストーリー展開とかオチが分からないなと感じました。

委：初出版時の「こびとづかん」の見た目の気持ち悪さを覚えている人が多いだけに、そういう人たちからみると、「ちょびつとづかん」はあっさり可愛くなりすぎて、話のオチをもう少しひねった方が、今どきのティーンには受けるのではないかと思いました。今のままのアニメですと、それこそ小さい子どもにはよいのではと思います。

局：現在サブターゲットとしている子どもたちの取り込みもこれまで以上に出来ると考えています。「こびとづかん」では着ぐるみは制限されて出来なかったのですが、「ちょびつとづかん」では出来るようになりましたので、子どもたちに受けると思います。

委：「こびとづかん」の世界観をもって見始めたので、「ちょびつとづかん」では同じ背丈のゆるキャラが何人か登場するというような、普通の大きさのキャラクターだなという印象を持ちました。小人たちであれば、何かと大きさの比較をしていれば分かりやすいかと思いました。

局：様々なご意見を伺うことができ、有り難うございました。

② 「キッズかん」合評： 委：番組審議委員／局：キッズステーション

局：当社では、“映像で見せる図鑑”をコンセプトとして、2016年4月から「キッズかん」という番組を放送しております。これまで”乗り物“を中心にラインアップしてまいりましたが、2016年9月放送分より子どもたちにも身近な”物が作られる様子“、“楽器“、“食べ物“という3テーマにて新たに番組を制作

しております。

9月放送開始の本番組の最大の特徴は、「キッズかん」の放送枠のみならず、多面活用できるよう、プロダクション所属タレントを起用せず、JASRAC登録楽曲等も使用しない著作権オールフリーの完全当社帰属の番組コンテンツとして制作しているところにあります。また、ネットやアプリでも活用、二次利用しやすいよう、番組枠15分、実尺13分の映像を3分のショートバージョンに分割できるように構成しております。

制作本数としましては、「ものがつくられる！ずかん」が2本、「がっきずかん」が2本、「たべものずかん」が8本になります。

演出面の特徴としては、今回の番組では、調べる気持ちになってもらうことも含めて、あえてナレーションは入れず、テロップに関しても極力入れないようにしております。映像の中の“もの”をじっくりと観察させることに集中させ、何度も見返すことで映像の中の“もの”の成り立ちが理解できる演出としております。

委：本番組ではナレーションを入れないということが、上手く行っていると思います。使われている音楽も軽快で、例えば、鉛筆ができる様子は他で何度も見ているのですが、あらためてこんな作り方がされているのかと納得しながら見させてもらいました。また、「がっきずかん」に出てくるハーモニカの四重奏も見事で、簡単なひらがなだけのテロップでここまで楽しめるものだなと感じました。あと、「たべものずかん」の玉ねぎと豆腐という白い物を同系色のバックでここまで映し出す美しさにぐっときました。それと、木綿豆腐の木綿状の線があそこまではっきり見えたのには驚きました。

局：番組はそれぞれシンプルですが、「たべものずかん」であれば、フードコーディネーター、照明スタッフとの協議を重ねながら、あえて白の背景で撮影し、素材そのものの質感を際立たせるように致しました。木綿豆腐をはじめ、それぞれの材料は出来る限り近距離で撮影し、“素材”そのものの成り立ちが分かる映像としております。「がっきずかん」についても、幼児向け音楽の監修実績があるコーディネーターに、ターゲットに合った楽器の種類、実演者を選抜してもらい、映像の見た目はかなり簡素にはなっておりますが、撮影に至るバックグラウンドでは工夫を凝らして作っております。

委：「たべものずかん」は、どういう切り口で食べ物を取り上げて行くのか、表現方法をどうパターン化して行くのか気になりました。玉ねぎでしたら、皮を延々とむく様子を映し出しているので、豆腐が出てきた時はどう見せるのかなと思って見ていました。後々、バナナとかリンゴのような食材が出て来た時はどのような映像表現になるのかなとも思いました。また、味噌汁も色々な種類があるので、人、地域によっては作り方も違うと思うので、どう選んで行くのか、表現の仕方等難しい時もあるので、はと思いました。ハンバーグは作り方を見せるという風になっていると思いますし、食材そのものを映し出すのか、作り方の映像を見せて行くのか、どちらなのか思いを巡らしながら見ていました。

局：確かに味噌汁にしても色々種類がありますので、食の専門家の意見を聞きながら、映像表現についても相談をしながら、視聴者が見て違和感を覚えないよう、取り上げる食、食材には気を遣い、選ぶよう努めています。

委：レシピがいつか紹介されるのかと思って見ていたら、豆腐の時はお酒のおつまみ風の豆腐入りサラダに変わったり、子ども向けらしくないものであったりとも思ったのですが、それはそれで、色々あって楽しめるものかとも思いました。

味噌汁も、例えば細かく見るとダシを取る部分がなかったりするのですが、そういった省かれた部分も親子で見る際の会話のきっかけにもなるのかなと思って見ていました。

委：「ものがつくられる！ずかん」では、ナレーション、音なしで、あそこまで真剣に、詳しく見せてもらえて感動しました。その流れで「がっきずかん」を見た時、例えばクラリネットでしたら、どんな木から材料が取られて、どう金具部品が製造されるか等、期待しながら見ていました。ただ、今回はそういった製造過程が映像表現されなかったのも、別の機会に取り上げていただければ、嬉しいなと思いました。

あと「たべものずかん」に関しては、玉ねぎはずっと玉ねぎだけ映していたので笑えました。豆腐も普段はじっくり見たことはなかったのも、興味深く見させてもらいました。子どもと一緒に見る時に親もよく知らないものの作り方が取り上げられますと、会話になりやすく、子どもと共通の話題で盛り上がり、とてもよいと思います。

委：折り紙はどうやって作るのかなんて考えたことはなかったのも、あの様に重ねた大判の紙を折り紙の大きさに裁断して製品化するという工程がとても分かりやすく映像化されていて感動しました。

今回見させていただいた「キッズかん」は分かりやすく出来た映像ですので、冒頭に簡単なナレーションを入れたり、音楽を少し変えたりして、BS放送で見かける海外の風景映像のような感じにして、用途を広めた使い方、様々な二次利用を考えてみてはいかがかなと思いました。以前の乗り物を取り上げた「キッズかん」では、解説があり、音声もあり、作り方が違うように見受けました。

局：乗り物の場合は、制作の発注形態が違っていました。

局：従来の「キッズかん」乗り物の場合は、そもそもは市販の1時間とか2時間のDVDがもとになっており、13分になるよう当社放送用に編集し直しました。その際、もともと入っていたナレーションや音声はそのまま活かしたり、時には追加編集しておりますが、当社では著作権を保有しないものになります。

委：乗り物の場合と今回は作り方が全く違うんですね。

局：はい。従来の乗り物は、当社では著作権を保有しないものになります。当社が放送用に編集し直しても他社が著作権を保有しています。新たに制作している「ものがつくられる！ずかん」、「がっきずかん」、「たべものずかん」については、当社で全て著作権を保有しております。

委：様々な用途に対応できるよう許諾を取られており、将来ビジネスチャンスが広がる、とてもよい取り組みだと思えました。個人的には、楽器については、製造過程の映像がなくとも、組み立てから始まり演奏になったのは楽しめました。ナレーション、説明がない分のめり込むように見入ることができたの

で、音声ガイドがない方がかえって効いていると思いました。ただ、「たべものずかん」では、玉ねぎの次にハンバーグ、豆腐の次が味噌汁の紹介になるので、それぞれ作り方の映像も入りますが、しっかりレシピを説明してもよいのではと思いました。

委：トロンボーン、クラリネット、ギター等これまで馴染みのない楽器まで、興味深く見ることができ、面白かったです。えんぴつの作り方は、相当量の材料を使う、驚くような映像も出てきて、製造過程が垣間見れ面白く、こういった場面を見ていると親子の会話につながりやすいのかなと思いました。ただ、冒頭の映像で、これからえんぴつの作り方を見せようとか、一言ナレーションがあってもよいのではないかと思います。でも子どもでしたら、なくても、入り込んで見るかも知れないですね。

放送の際は、「ものがつくられる！ずかん」、「がっきずかん」、「たべものずかん」は3つ続けて1日で見せるのでしょうか。

局：いいえ、それぞれ1本13分のを日替わりで放送しています。

委：「ものがつくられる！ずかん」の中に出てくるものの製造の過程で、必ず工程のどこか一か所は人間の手を借りる所があるということが分かり、それが印象に残りました。

委：えんぴつも、折り紙もどのようなプロセスを経て最終工程に至るのか、とても興味深く見ることができました。特に折り紙は大きな紙の裁断の場面は面白かったです。工場見学にまでは足をのばせられない忙しい人にとってはよい番組ですね。中学生の男の子たちも意外とこういったものがどう作られているのか知らないと思います。このように製造のプロセスを詳しく見せると、ものを大切にする気持ちになるのかもと思いました。音楽も場面ごとに色々な種類のものが使われ、工夫されていることがよく分かりました。

局：様々なご意見をいただきまして、有り難うございます。今後の参考とさせていただきます。

3.視聴者からのご意見

局：お客様からの反響が目立った番組として、9月16日(月)敬老の日放送の「忍風カムイ外伝」への期待が伺えるご意見を多数いただきましたので、今回紹介したいと思います。

同番組に関して8月末までに、よかったとのご意見が13件あり、その内6件が同番組の一举放送についての反響でした。めったに見られない作品ということで感謝のお言葉や追加契約意向との入電、放送日時のお問い合わせがあった他、台詞をノーカットで放送して欲しいとのご要望もいただきました。

また、一度だけの一举放送の為、集中豪雨などの天候不良による受信障害を心配された再放送のリクエストも放送前に入りました。今回のように12時間に及ぶ長時間の一举放送ですと、録画用ハードディスクの容量制限の関係で、連続録画の設定が難しいこともあるので、話数を何日かに分けて放送していただけると有り難いのご意見もいただきました。

その他では、「忍風カムイ外伝」のような60年代の作品をこれからもっと放送して欲しいとのご意見もいただいております。

委：実は、白土三平氏の「忍風カムイ外伝」、「サスケ」の両作品は、私がある作品を制作する際に特にオープニングの部分について研究させていただきました。個人的には忍者が好きで、2020年の東京オリンピックは世界中から注目されますので、この機会に国内で忍者ブームが再燃して、オリンピックの開会式では忍者が飛び交うようなイベントがあってもよいのではないかと思います。

委：私は、「忍風カムイ外伝」のマンガの単行本を全巻持っています。今回一挙放送される際にアニメ誌等に告知を出されたのでしょうか。特に40代より上の層には受けたと思いますが、そういった層が読む雑誌、アニメ専門誌等へも告知はされたのでしょうか。

局：今回の一挙放送にあたっては、1969年初TV放送時では表示されなかった、Blu-ray化された際に広がった画角で、ニューテレシネHD版で初放送するということ、広く多くの視聴者が読まれる番組ガイド誌等に取り上げられるよう心がけ、それら媒体にカムイの画像素材が載るようにプレスリリースを出しました。ある事情で実現出来ませんでした。中高年視聴者の多いチャンネルにもターゲットを絞って番組宣伝を出す計画もありました。今後、再度連続放送企画を行うとしても、放送時間の長さやEPGの設定を工夫することはしっかり考えて行きたいと思います。

局：12時間も録画するとなるとハードディスクがすぐ一杯になってしまいますので、録画開始前に録り溜めてあった番組のどれを消して残すか、整理が大変でした。

局：録画され、それでよしとされると肝心の番組を見ていただけなく恐れもありますので、それはそれで悩みどころでもあります。

局：それではこれにて、本年度第2回番組審議会を終了させていただきます。有り難うございました。

4.その他事項

2016年度第3回番組審議会については、決定次第ご連絡いたします。

以 上